

平成 30 年度 未来をつくろう 市民と市長の地域懇談会

報告書



日時 平成 30 年 10 月 3 日（水） 午後 6 時 30 分～9 時 10 分

場所 西地区コミュニティーセンター

参加者数 56 人

市側出席者	市長	北 猛俊
	副市長	石井 隆
	教育長	近内 栄一
	総務部長	稲葉 武則
	市民生活部長	山下 俊明
	保健福祉部長	若杉 勝博
	経済部長	後藤 正紀
	建設水道部長	吉田 育夫
	教育部長	亀淵 雅彦
	ぶどう果樹研究所長	川上 勝義
	企画振興課長	西野 成紀
	財政課主幹	高田 敦子

【市長 開会のあいさつ】

本日は、大勢のみなさんにお集まりをいただき、開催できますことを大変うれしく感じています。今日の地域懇談会は、桂木町、北斗町、新富町、西町、学田二区、清水山、島ノ下と範囲が広いですが、夜分お疲れの中、足を運んでいただきお礼を申し上げます。5月に就任してから5カ月が経とうとしています。この間、当初目標としていました、すべての市民が健康で幸せを感じる安全安心なまちづくりについて、今日までいろんな方々からご意見をいただきながら、務めているところです。まちづくりの目標をかなえていくためには、多くの市民の参加によりご提言をいただき、そのご提言の責任のなかで市民の側の役割、そして行政が果たさなければならないことなど、お互いに理解をしながらまちをつくっていくということが大切です。そうしたことから、この地域懇談会は大切な取り組みだと理解をしています。この後の意見交換では、忌憚のないご意見をいただきますよう、よろしくお祈りいたします。

まちづくりには多くの課題がありますが、そのなかで当面富良野市として解決をしなければならない課題が2点あります。「JRの問題」「市庁舎の問題」について、市民のみなさんにご理解をいただきたく、例年の地域懇談会よりも早めに始め、今日で6会場目となります。市が持っている情報をみなさんと共有しながら理解をいただくことが大切です。前段、この2点について、いままでの経過、市の考え方について説明させていただきます。その後、地域で抱えている課題についてご意見を賜りたいと思います。

いずれにしても、多くの方のご意見をいただきますよう、よろしくお祈り申し上げます。

1. 鉄道のあり方

【ご意見】	【市の回答・対応方針】
<p>○富良野線は、美瑛、美馬牛と馬鈴薯の産地。貨物列車を富良野線で走らせることはできないか。</p> <p>○鉄道は、客を運ぶのと一緒に文化を運ぶ手段。無くなると大変なことになるので残してもらいたい。外国人観光客が北海道を一周できるようになれば利用客も増えるのではないか。市として乗る人だけを試算しているが、イベントを計画して利用してもらうようなことは検討していないのか</p>	<p>○現在、富良野 - 滝川間は9万トンを輸送していますが、そのうち富良野圏域の馬鈴薯は約6千トン札幌のターミナルに運んでいます。旭川にもターミナルがありますが、JRによると、富良野の貨物はすべて札幌の白石にある札幌ターミナルに運んでいることから、現状、富良野の貨物はすべて根室線を利用している状況です。しかし、9万トンすべて貨物で運んでいるわけではなく、約3割はトラックが代行輸送しています。</p> <p>○協議会のなかでも鉄道のなかでイベントをしながら移動をしていく提案もできています。それを現実的にしていくために、少しでも利用促進を図れるよう富良野線や根室線の協議会で知恵を出しながら計画をしていきたいと思っております。</p>

2. 新庁舎建設について

【ご意見】	【市の回答・対応方針】
<p>○検討委員会の体制のなかで検討一体型という説明があり、市議会議員が入っているが、議会が庁舎のなかに入っているので一体で検討をしているのか、期間が短いからか。今後、この主の事業には市議会議員が入るのか。議会と市長は二元代表制であり、市長のやることに対して、チェックするのが議会の役割。賛成権も拒否権もある議員が、中に入って一緒にやるのは行政がゆがめられる懸念があるのではないのか。</p> <p>○返済期間が30年で、年間どのくらい返済するのか。これから高齢化によって人口が減っても市民に負担はかからないのか。</p> <p>○検討委員会の一般公募は何人いるのか</p> <p>○庁舎の返済と鉄道の負担もある。両方を検討して市民にしわ寄せがいかないように考えているのか。</p> <p>○富良野市の今後の財政はどうなるのか、高齢者が増えて人口は減っていく。収入が減ってくるなかで支出は増えていく。そのなかで、毎年1億7千万円を負担する。今後、財源がどれだけ残って、どれだけ住民サービスに影響があるのかを明らかにしてほしい。</p> <p>○介護業界では、利用者はたくさんいるが、職員が足りない。将来、介護が必要な人を見切</p>	<p>○議会は庁舎の利用者という立場もありますが、検討する期間が短いということで市議会と相談しました。二元代表制ということは承知のうえで、議会にも了解をいただきながら、今回は一体型の方が良いということで検討委員会の中に市議会議員のみなさんに入っています。基本的には、二元代表制ということがありますので、今回のように一緒になって検討することは特別なケースだと思っています。</p> <p>○年間2億3千万の返済額のうち、国からお金が入ってきますので、実質1億7千万が毎年の返済額となります。</p> <p>○庁舎がずっとこのままということにはなりません。財源については、庁舎を新築することでランニングコストも減ってきますので、いろいろな面で減らしていきたいと思っています。また、文化会館と市庁舎を一緒にすることによって面積を小さくコンパクトにしていきたい、できる限り市民のみなさんの負担が大きくなるようにしていきたいと思っています。</p> <p>○検討委員会は、学識経験者、町内会連合会、観光協会、市PTA連合会、商工会議所、社会福祉協議会、文化協会、農協の7団体と、一般公募の3人。その他、市職員と市議会議員を含めて21人で組織しています。</p> <p>○鉄道と市庁舎の関係は、総務部が所管していますので、一緒になって検討しています。</p> <p>○多大な借金をして返済をしていくので市民のみなさんは不安になることが多分にあるということは承知しています。市の財源は使って減っていくだけではなく、今現在も、必要に応じて財源を確保していくことで財政が成り立っています。例えば、建設費58億円に対する1億7千万円の返済になっても、健全財政は維持できるという範囲に収まっています。1億7千万円の支払いがあると、ほかの仕事が</p>

れない状況が起きてくる。人材をたくさん集める方法にお金を使ってほしい。例えば、日本語学校をつくって外国人に来てもらって働いてもらうとか。市庁舎建設に使うとそういうことに使うお金がなくなる。実際に人口が増えている町もある。いろんな政策を打つことで人口を増やすことができる。市庁舎は最低限度の費用で建てて、残った財源で子育て支援や移住者の支援など、富良野の人口が減らないよう、発展することをしてもらいたい。

○建築費は減るかもしれないが、増える可能性もあるのか。

○何年も前から義務教育の医療費無償化をお願いしているが、それには5千万円かかるのでできないという回答があった。遊び場をつくって欲しいという願いも何年もしてきたが、達成されないなかで58億円という新市庁舎がでてきた。私たち生活のなかで、すぐに取り組まなければならないことかどうか疑問。人口減少の対策が今すぐ必要ではないか。生活のなかでもっと必要なことがある。子育てするなら富良野でというが、本当に子育て世代の声を聞いて実行していくのか。子育て支援をするのであれば、具体的にどういう政策を何年以内にするのか、それにいくらかかるのか。子育て世代だけでなく、高齢者のみなさんも含めて、市民のみんなが全員納得できて、安心できるような政策があったうえでの新市庁舎建設ということの数値化するときと同時に出示してもらいたい。子育て支援はい

できなくなると心配されていますが、そうならないように努めていきたいと思います。今までも、市が建物を建てる時には借入れをし、返済をしてきました。長期的にみると、今後30年のなかで、衛生処理センターなどの返済が終わってくるものもありますので、順次借入れができる状況にもなってきます。人口減少社会や人材育成、雇用の確保など、様々な手当が必要になります。そうした財源や庁舎建設の返済に充てる財源など、長期に渡っての財政状況については、検討委員会のなかで庁舎のありようを検討していますので、それが定まったときに、財政規模や償還の金額、将来の財政見通し、取り組まなければならない事業と費用も含めて、市民のみなさんにご提案していきます。その中で、市庁舎の建設についてご判断していただきたいと思います。

○これから基本計画を立てていく段階で、もっとわかりやすい形で数字をお知らせしたいと思います。より優位な国からのお金がもらえるようなことを研究させていただいています。ある程度の目途も立っていますので、そのことも含めてシミュレーションし、来年の春先にはお知らせしたいと思います。

○検討委員会のなかで議論をし、そんなに大きくならない、そんな機能までいかない。ということになれば、どんどん変わっていきます。そういう形で圧縮をしていくということになります。

○庁舎建設と子育て支援は切り離して考えていただきたいと思います。借金をたくさんしたら子育て支援ができないのではないかと、いう財政のありようはつくらないように努めていきますのでご理解をいただきたいと思いません。

○子育ての関係ですが、対策として医療費が中心に議論がされていますが、医療費を義務教育まで無償化することについては、議会のなかでも議論をいただきました。それにかかる経費もありますが、もっと効率の良い子育て支援はないのかを考えています。その考えのなかでは、子育て世代の方々から、アンケートや市長トークなど、いろいろな形で意見を集約し、次の方法を考えていきたいと思っています。基本的な考えとしましては、子育ては医療費だけでなく、住宅環境、教育、

つできるかわからないまま、1億7千万の借金を市民に負担してくださいといわれると、30年後には人口がもっと少なくなり、将来、子ども達が負担するのも今より大変になる。親世代に納得する説明をしてもらいたい。

保育など、トータルで子育て支援ということを考えていかなければならないと思っています。国は、幼稚園と保育所の無償化をする取り組みが始まっています。これは、人口減少対策の取り組みのひとつになっています。そうした国の方向性に準じて、自治体のありようも作っていくということが大切になってきます。人口問題を解決するのは、若い世代の方々が富良野に住んでいただく必要があります。人口流出では、これまでの取り組みのなかで若干の解消がみられますが、それで良いとは思っていません。この後も、みなさんの意見をききながら、効果的な方法を考えていきたいと思っています。

○産婦人科医や内科医にも残ってもらう取り組みも子育てに関係していますので、一緒に取り組んでいます。

3. 防災体制について

【ご意見】	【市の回答・対応方針】
<p>○停電の関係で避難所を周知するチラシが一枚回ってきた。チラシの内容は寝具も食事もない。新富町から東中学校やふれあいセンターに独居高齢者がどうやって行くのか。町内会を回れといわれてもチラシが1枚しかないし、玄関のチャイムも停電で使えない。非常に大変な思いをした。</p> <p>○ふれあいセンターが避難所になるが、今回は食べ物も毛布も持参ということだった。災害が起きる度に避難所に指定されるところに毛布は一枚もないのか。あるならなぜ使わせないのか。</p> <p>○地震による停電では、町内会長に避難所のプリントが回ってきた。そのあと、民生委員にも配布された。今回の停電は今までに経験が</p>	<p>○今回の停電では道内全域ということで、避難所というよりも一時的な退避所ということでの設置を行いました。そのなかでみなさんにお知らせする方法としては、広報車やチラシを回すほか、安全安心メールなどを活用しました。退避所という考え方でしたので寝具や食事は持参としましたが、連絡が足りなかったかもしれません。お年寄りで交通機関に困っている方は対応できますと話をさせていただきましたが、伝わっていないのであれば改めて改善点を含めて調整させていただきます。</p> <p>○今回退避所として開設したふれあいセンターは、福祉避難所ということで常時指定されています。その関係で畳があり、毛布も備えています。今回も、ふれあいセンターと東中学校で毛布を用意していましたが、対象が市内全域ということで、できるかぎり持ってきてくださいという意味を含めて周知しました。</p> <p>○発電機は、市役所本庁舎でも大会議室と総務の部屋しか電気が供給できていない。6日当日は夜まで停電でしたので、他の部署は停電</p>

なく大変だったと思うが、実際は、現実的ではなかった。民生委員は安否確認に巡回していたが、そのなかで質問を受けた。避難所に毛布がないのはなぜか。西町や桂木町からどうやって行くのか。ふれあいセンターには自家発電がある。水害のときは西町や桂木町の会館は使えないが、集える場所に自家発電機の設置を考えてもらいたい。福祉課にいくと停電していた。断水になるという誤った情報も流れた。安否確認の中核になる福祉課が停電で機能しなかった。福祉課から情報を発信することができなかった。今後の災害を考えると自家発電機の設置が必要ではないか。要支援者に毛布を持って避難所へ行けということにならないよう、会館という場所も災害時の待機場所になるよう備えてもらいたい。

○地震当日、断水になるとの誤った情報が流れた。先日、中五区の水源地施設を見学に行ったところ、施設には自家発電があるため断水の心配はないことを知った。

○FMふらのという地元の放送局があるが、なぜ流さないのか。たまたま11時ころに聞いたら、富良野市は断水になりません。地下水などで水が出ない人は臨時給水をしていると説明があった。東京の放送を流すよりも、地元の放送局を使って断水しないことを流して欲しかった。

のまま過ごしていました。そうしたことも踏まえて、災害に対する備えは、どういうところが大切なのか。保健センターも含めて、検証していきたいと思います。現在整備を進めているのは、避難所に指定している各学校で外部電源を接続できるようにしたいと思っています。今年は、富良野小学校を外部電源に接続できるようにしています。来年度も、別の学校の整備を予定しています。避難所を間違えなく確保できるような整備をしたいと考えています。その後、優先順位を考えながら、みなさんが安心していただけるようなことを検討していきたいと思います。

○断水の誤った情報を打ち消すのには大変苦労しました。FMふらのについては、朝5時頃には来ていただいて、放送してくれました。断水の関係も放送していましたが、聞かれる方の時間と合っていませんでした。今回みなさんからのご示唆を受けて、さらにわかりやすい形で放送できるよう、FMふらのと連携して、使えるようなかたちにしていきたいと思っています。今後、北の峰にアンテナを設置して範囲を拡大し、FMふらのをさらに良く活用できるような形にし、連携したいと思っています。みなさんには、安心安全メールの登録をしていただきますようお願いいたします。

○FMふらは、Jウエーブが流れていた。なぜ、この大変な非常事態のときに音楽が流れているのか。というご指摘をいただいています。FMふらは放送はしていますが、放送をしていないときにJウエーブが流れていました。FMふらは、地震直後に、ワインハウスにある基地局に行き、自家発電を置いて使えるようにしてくれていました。しかし、常時非常放送として利用されなかったということです。市側からFMふらのに割り込んで放送ができるようになっていきます。今後の対応として考えているのは、「何時現在の情報です」という放送をエンドレスで流すようにしたいと思っています。状況が変わったら都度、何時現在の情報ですと切れ目のない放送を続けたいと思います。そのことは、市とFMふらのの協定で、できることになっています。その際は、CMの sponsor にも了解をとる必要がありますが、そのような形で利用させてもらうことをFMふらのに伝えていきます。

- 西町は、緑峰高校に避難するように訓練しているが、避難所の指定場所になっていない。
- 民生児童委員会では、支えあいマップ事業に取り組んでいる。ここは危険な地区で、要援護者を包括的個人情報の確約がとれた人たちを抽出しながら、西町、桂木、北斗、新富町の町内会役員や社会福祉協議会で話し合いをした。そのなかで一番多かったのは、避難所への不安。ふれあいセンターや人材開発センターに行かなければならないが、どうやって行くのか。そのときに、近くにある緑峰高校や西中学校で良いという情報を流してほしい。現在のハザードマップはとても古いもの。避難勧告が出る前の避難準備のときに、遠くまで運ぶのは現実的ではなく、助け合いという気持ちが遅れる。まずは近くに避難する。2階3階があるところに避難するということを、正確な情報として出してほしい。
- 92年前の洪水では、山部から上富良野まで原木が流れていった。元の集会所は現在の緑峰高校の場所にあったが、この辺では一番高い場所だった。緑峰高校はこの辺の避難場所としては適当だと思う。

- 西町の地区の避難所は、緑峰高校と西中学校になっていますが、現在、洪水のときは緑峰高校周辺はかなり深くなります。再度、緑峰高校と西中学校の避難場所が洪水対応できるのか。垂直避難という考え方もありますので、みなさんが集まりやすい形を含めて、全体的な避難所の見直しを行い、今後、知らせていきたいと思います。

4. 子ども子育て支援について

【ご意見】	【市の回答・対応方針】
<p>○義務教育の医療費無料化もできていないのは財政的に厳しいからできていないのではないか。</p>	<p>○義務教育の中学生までの医療費無償化については、平成27年に市民アンケート調査を行い、子育てや人口減少対策で必要な政策について聞き取りました。その結果を集約し、平成28年から32年の5年間を計画期間とする総合戦略を策定しました。このなかで、市はこれまで小学生未満の非課税世帯に限り医療費の無料化をしていましたが、平成28年度に小学校入学前までのすべてを無償化するという目標を立てました。これにより、平成28年4月と8月に制度を改正し目標を達成しています。この間、中学生までの無償化については、市議会からも質問が出されていますし、市民のみなさんからもご意見をいただいています。学校に行く前、学校に行ってから、そし</p>

○ほとんどの自治体が義務教育の医療費無料化ができています。富良野市はできていないのに、58億円の市庁舎を建てるということは市民感覚と違和感はないのか。

○平成 32 年度以降でない小学生と中学生の医療費無償化はされないのか。

てその親もですが、子育てにはお金がかかります。市長からは就任後より指示を受け、子育て世代にとってどのような施策が一番有効なのかということを経済部が集まり、事務レベルで協議を行うように指示をされております。今後、医療費の無償化や子育て世代の経済的負担が軽くなるような施策を検討していきます。

○58 億円は決まりではありません。もし建てるのであればどんな庁舎がいいのかを市民のみなさんからの意見をききます。仮に 58 億円の建物を建てた場合、1 億 7 千万円の返済ということですが、額はきまりではありません。より優位な財政措置を調整させていただき、市民のみなさんにより負担がないようなかたちを調整させていただきます。

○総合計画や総合戦略のなかでアンケート調査を行い、子育てに関しては第 3 子の助成やおむつの助成、乳幼児医療費の助成などの意見をもとに子育ての政策を 5 カ年計画に盛り込みました。計画は平成 28 年から 32 年度です。計画以外の事業を実施するのは極めて政策的なものや必要最小限のもので、計画にない事業の財政支出は他の部署の事業もありますので慎重になります。乳幼児医療の無償化については必要だということで計画の初年度に達成しています。現在、子育てに関係する、子ども未来課、保健医療課、市民課の 3 課で、それぞれの担当者が窓口で聞いている市民の意見を集めて、どういう政策がいいのか、どういう事業費が必要なのかを検討していきます。

○部署を横断的に子育て支援のあり方の協議をしています。今の計画以上のことはやらないのかという質問がありましたが、医療のことでいえば、子ども達にとって本当に手当てしなければいけない医療はどのようなものか。ということの検討を加えながら、無償化のことも考えていきたいと思っています。また、無償化だけではなく、検診や予防のことも含めて検討させていただきます。やらないということではありませんのでご理解をいただきたいと思っています。

○富良野市でも道の助成のなかで小学校 6 年生までは非課税世帯に限り入院が無料となっています。課税世帯についても一部助成があります。義務教育の医療費無償化の実施について

○高額納税している若い農家の夫婦は、目の前を通り抜けていくお金の金額が大きいということで、納税額が大きくなり、医療費無償化の対象になっていない家庭がたくさんある。高額納税している家庭は、子どもが入院すると1回あたり5万円から6万円かかる。納税額に応じて頭打ちをしている状況をどのように考えているのか。

○小学生に入学するときに算数セットを購入するが、進級すると使わなくなる。学校で購入して、備品として貸出できないか。小学校では彫刻刀購入や名札の着用について、学校ごとに対応が違う。

ては明確な答えはできませんが、早めに有効な施策を考えていきたいと思います。

○高額医療についても、子ども達に必要な医療は受けられるようにしていきたいと思っています。しかし、今の段階であれもやる、これもやるというところの結論はでていません。考え方としては、子どもにとって必要な医療はどんなにお金がかかっても提供していただけるような体制をつくりたいと思います。所得区分に関係では、今の話を参考にさせていただきたいと思います。

○算数セットは2年前から要望があり、検討していますが、平成32年度から新学習指導要領になることから教科書が変わります。今の算数セットは使えなくなります。平成32年以降は、国が決めるカリキュラムに基づいて、小学校で使える算数セットはどのようなものを現在検討中です。先行事例としては、昨年から上富良野町が実施していますが、そのなかで、使い古しを嫌がる人、細かいものの補充確認は誰がするのか、という問題がでています。そうしたことも参考にしながら考えていきたいと思っています。名札に関しては、各学校での安全対策をしています。統一できるものは統一し、地域の特性での対応もありますので改めて確認させていただきます。新聞でランドセルが重たいという報道があり、9月に学校調査を行っています。そのなかでは、学校やクラスで配慮をしているけれど、基準が統一されていない状況です。現在、校長会で相談させていただきながら、どういう形が良いのかを情報共有しながら検討をすすめているところです。彫刻刀については後日確認させていただきます。

5. 人口減少問題について

【ご意見】	【市の回答・対応方針】
○人口が少なくなるので南富良野町との合併を考えてはどうか。	○現在のところ合併の話はでていません。過去に広域連合を選択した経過がありますが、当時研究してきた結果、合併は難しいと各首長が判断しました。将来は合併を視野に入れるとしても、今の段階では、地方自治ということで各市町村がそのまま存続をするという

意思があります。広域連合では、給食、衛生センター、消防、串内牧場をやっていますが、それ以外にも5市町村が事務で連携する定住自立圏構想という考え方もあります。これは、現在、富良野市が中心となって進めています。

6. 地域の課題について

【ご意見】	【市の回答・対応方針】
<p>○スポセンのパークゴルフ場を利用していた高齢者が和式のトイレに入って出られなくなった。和式便所のあり方として、外国人観光客が多く訪れるがそのようなことで良いのか。高齢者は手すりが必要。パークゴルフ場や公園のトイレはどのようになっているのか</p> <p>○除雪で、道路の両脇に雪を残していくことがある。家の前は除雪するようになっているそうだが、業者に聞くと違うと言われる。</p>	<p>○必要最低限の修繕を年次的に行っています。スポーツセンターのトイレは平成30年度に洋式化し、バスケットゴールの改修、アリーナ照明のLED化、若葉球場の防球フェンスのネット改修、来年度は若葉球場トイレの洋式化など、年次で長期的な修繕計画で対応していきますが、事故につながるような危険な箇所は随時修繕対応していきたいと思いません。</p> <p>○新しい公園にあるトイレは洋式ですが、古い公園のトイレは一部和式が残っています。昨年は緑町、今年は泉公園を洋式化し、和式には手すりを設置しています。今年の泉公園を最後に、公園にあるトイレの水洗化は完了します。スポーツセンターのパークゴルフ場トイレについては、今回の事故を受けて手すりを設置します。金満と山部のパークゴルフ場については、まだ手すりの設置ができていませんので早急に対応したいと思います。</p> <p>○基本的には間口除雪を行っています。もしも間口除雪をしていない業者がいれば、今年の打合せで徹底をし、必要最小限の間口は確保できるように除雪をしていきます。ただし、市で行っている除雪は道路だけです。排雪も同じです。昨年、チラシでお知らせしましたが、排雪があるからといって家の中の車庫や庭の雪を道路に出すことは避けてください。また、どうしても堆雪するスペースも必要になってきますので、みなさんのご協力をお願いします。交差点については、状況をみながら、カット排雪などで交差点の安全を保つよう、随時パトロールをしていきます。市の除雪以外の業者が勝手に交差点に堆雪する場合がありますので、指導を強化していきたいと思いません。</p>

【市長 閉会のあいさつ】

長時間となりましたが、お付き合いをいただきありがとうございます。今日は、JRの関係と庁舎の関係でご意見をいただきましたが、それに加えて様々なご提言とご意見をいただきました。まさに未来につなげていくためのご意見だと理解をしています。そうしたご意見が出されるなかで、もっとがんばれとうなずく方、そうだったのかとうなずく方、いろいろな方がいたと思います。発言しなかった方々も、まちづくりについて興味や関心を抱くことができた良い地域懇談会になったと感じています。

みなさんとの意見交換は、今日で終わりではありません。いろんな手法を使いながら、みなさんの意見を聞く場所をつくっていきます。ぜひ、このあとも、そうした制度をつかひながら、みなさんと意見交換を深めさせていただければと期待をしています。

この地域の益々の発展と、このあとも行政に対してのみなさまのご協力をいただきますようお願い申し上げます。

【参加者アンケートの主なご意見】

年齢区分	性別	ご意見
30-39 歳	女性	医療費の無償化は全国で8割の自治体で無償化を実施している。
30-39 歳	女性	財政に関しては金額なども含めて、もう少し明確な数値で示すべき。老朽化や国の補助を考えると急ぐ必要があるが、市民の理解を得て欲しい。学校教材の公費化のシステムはとても良いと思う。学校事務の先生方が努力をしてくれている。子育て世代への支援という点では、医療費以外のところでも大きい。図書館に博物館が来るのは子どもの学習機会が増えて良い。
30-39 歳	女性	地域懇談会の開催時間が夜なので、小さな子どもがいると参加しにくい。日中の時間帯にも開催してほしい。
30-39 歳	女性	市民が何を求めているのか、現在必要なことは本当に何なのかをもっと考えて欲しい。
40-49 歳	男性	新庁舎の建設は建設費 58 億円、30 年間で1億7千万の返済という話が最もインパクトのある質問で、誰もが心配しているが、市の答弁が明確でない。大部分の人は財政的に健全であれば納得する。前向きで簡潔な説明が必要。
40-49 歳	女性	新庁舎建替えは、未来の住民が負担にならないような計画を立てて、現在の住民が納得できるような形にして欲しい。
60-69 歳以上	男性	公園遊具の取替には感謝している。子育て世代の定住につながると思う。
60-69 歳以上	男性	30 年間も借金を返済するのに、人口減少や税収減で耐えられるのか。PFIは考えていないのか。